2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	情報科学Ⅱ 23p201	担当教員 （実務経験）	笹谷　純代 有 ☑　無 ☐　IT講習、雇用促進等のインストラクターとして20年以上にわたり従事		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な、情報リテラシーと Microsft Word、Excel、PowerPointの操作方法を身につけることを目的とする。また、社会生活において必要となる、情報やデータの処理方法と操作方法、それらを有効活用するための知識を習得して、現代社会に適応していく能力を身につける。				
到達目標	①Wordを使ってレポートやポスターが作成できる。　②Excelを使って集計表が作成できる。　③PowerPointを使ってスライドが作成できる。 ④情報化社会でのモラルや責任について、自己の考え方を説明できる。				
テキスト・参考図書等	30時間アカデミック　情報リテラシー　Office2016 Windows 10対応				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	・各試験の平均点50% ・提出物50%
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	50%	
	その他	%	

履修上の留意事項	①授業はPC室で行うので時間までに着席していること。②説明と実習（実習がメイン）③テキストは1年時のものを使用する。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	コンピューターとインターネット（序章）	ネット社会でのトラブル、回避するために
	2	文書化の応用（第2章 付録）	ビジネス文書の基礎知識
	3	文書化の応用（第2章7）	長文作成をサポートする
	4	文書化の応用（プリント）	住所録作成、差し込み印刷、はがき印刷
	5	文書化の応用（プリント）	名刺作成、宛名ラベル作成
	6	文書化の応用（プリント）	ポスター作製、
	7	表計算ソフトの活用（第3章5）	いろいろな数式（絶対参照、いろいろな関数）
	8	表計算ソフトの活用（第3章7）	データベースの利用（並べ替え、データの抽出）
	9	表計算ソフトの活用（第3章8）	ExcelのデータをWord文書に貼り付ける
	10	表計算ソフトの活用（プリント）	ピボットテーブル
	11	表計算ソフトの活用（プリント）	さまざまな集計表
	12	表計算ソフトの活用（プリント）	さまざまな集計表
	13	プレゼンテーションソフトの活用（第4章7）	スライドショーをサポートする機能
	14	プレゼンテーションソフトの活用（第4章 付録）	プレゼンテーションの基礎技能
	15	まとめ	総合演習、情報モラル

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	解剖学実習 23p202	担当教員 （実務経験）	飯島　治之 有 ☑　無 ☐　医学博士を有し解剖学講師として10年以上従事		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	・理学療法の基礎になる骨・筋を主に各種臓器を模型等を観察し実習を行う。さらに解剖された人体観察を通して、その構造と各器官の連関を理解する。				
到達目標	・骨や筋をはじめとする人体臓器の構造、名称や位置および構造について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	小テスト、後期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	50%	
	提出物	0%	
	その他	%	

履修上の留意事項	必ず予習・復習すること。1年次に学んだ内容が基礎となるため自ら能動的に調べることを通して主体的に学習すること。講義後の確認テストは必ず見直しを行い理解すること。 解剖実習見学では、敬意を持ち医学を学ぶ学生として積極的に学習に取り組むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	骨学実習	オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習
	2	骨学実習	オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習
	3	骨学実習	オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習
	4	骨学実習	オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習
	5	筋学実習（上肢・下肢・体幹）	筋の名称や位置・構造について学習
	6	筋学実習（上肢・下肢・体幹）	筋の名称や位置・構造について学習
	7	筋学実習（上肢・下肢・体幹）	筋の名称や位置・構造について学習
	8	筋学実習（上肢・下肢・体幹）	筋の名称や位置・構造について学習
	9	靭帯学実習	靭帯の名称や位置・構造について学習
	10	脳・脊髄	脳・脊髄の名称や位置・構造について学習
	11	脳・脊髄	脳・脊髄の名称や位置・構造について学習
	12	神経系	神経の名称や位置・構造について学習
	13	心臓・肺・その他臓器	心臓・肺・肝臓・腎臓・胃・腸など主な臓器の名称や位置・構造について学習
	14	各臓器、器官のつながり	1～13回で学んだ位置や構造の関係性について学習
	15	各臓器、器官のつながり	1～13回で学んだ位置や構造の関係性について学習

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	各臓器、器官のつながり	1～13回で学んだ位置や構造の関係性について学習
	17	解剖学実習見学のオリエンテーション	人体解剖学実習見学にあたってのオリエンテーション
	18	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、（スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定）
	19	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、（スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定）
	20	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、（スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定）
	21	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、（スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定）
	22	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、（スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定）
	23	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、（スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定）

授業科目 （科目ID）	解剖学実習 23p202	担当教員 （実務経験）	二宮　孝文 有 ☑ 無 ☐ 道内・道外医科大学にて解剖学講座に所属し40年以上の経験を有する
対象年次・学期	2年・通年	担当教員 （実務経験）	山内　真帆 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院に理学療法士として8年勤務
授業形態	実習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	運動学実習 23p203	担当教員 （実務経験）	横野　裕行 有 ☑　無 ☐　道内・外の病院で理学療法士として8年勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	理学療法士、作業療法士にとって運動時の身体の現象を捉え理解することは非常に重要である。本科目では、実習を通して観察・測定・分析の各段階を体験し、理解を深めることが目的である。				
到達目標	・身体運動によって生じる諸現象の基本的事項について説明できる。 ・実習結果をまとめ、結果が生じた理由・原因について考察することができる。				
テキスト・参考図書等	基礎運動学（第6版　補訂） 運動学実習　第3版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	レポート点100% 詳細については、初回のオリエンテーションで説明する
	レポート	100%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	レポートはオリエンテーションを参考にして、充実した内容のものを作成すること。探究心を持って取り組むことを勧める。また、レポート提出は期限を厳守すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション・体表解剖	授業オリエンテーション、レポート課題の書き方、体表解剖（ランドマーク触診）
	2	オリエンテーション・体表解剖	授業オリエンテーション、レポート課題の書き方、体表解剖（ランドマーク触診）
	3	実習1	最大下酸素摂取量の推定（心拍数）
	4	実習1	最大下酸素摂取量の推定（心拍数）
	5	実習1	最大下酸素摂取量の推定（心拍数）
	6	実習1	最大下酸素摂取量の推定（心拍数）
	7	実習2	重心位置推定
	8	実習2	重心位置推定
	9	実習2	重心位置推定
	10	実習2	重心位置推定
	11	実習3	筋力測定
	12	実習3	筋力測定
	13	実習3	筋力測定
	14	実習3	筋力測定
	15	実習4	歩行分析

履修主題・ 履修内容	16	実習４	歩行分析
	17	実習４	歩行分析
	18	実習４	歩行分析
	19	実習５	嫌気性代謝閾値の推定（呼気ガス）
	20	実習５	嫌気性代謝閾値の推定（呼気ガス）
	21	実習５	嫌気性代謝閾値の推定（呼気ガス）
	22	実習５	嫌気性代謝閾値の推定（呼気ガス）
	23	まとめ、フィードバック	まとめと復習

授業科目 （科目ID）	運動学実習 23p203	担当教員 （実務経験）	竹中　謙将 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員 （実務経験）	武田　祐貴 有 ☑ 無 ☐ 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
授業形態	実習	担当教員 （実務経験）	元木　純 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員 （実務経験）	吉田　智子 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として10年以上勤務
		担当教員 （実務経験）	小野　直也 有 ☑ 無 ☐ 市内回復期病院で理学療法士として5年勤務
		担当教員 （実務経験）	和田　英峰 有 ☑ 無 ☐ 市内病院にて作業療法士として8年勤務
		担当教員 （実務経験）	池田　保 有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として10年勤務
		担当教員 （実務経験）	水尻　恵利伽 有 ☑ 無 ☐ 市内病院・介護保険施設にて作業療法士として5年勤務
		担当教員 （実務経験）	山田　里見 有 ☑ 無 ☐ 道内病院にて作業療法士として6年勤務
		担当教員 （実務経験）	山内　真帆 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院で理学療法士として8年勤務

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	臨床心理学 23p204	担当教員 （実務経験）	久原　奈緒子 有 ☑　無 ☐　道内スクールカウンセラーとして10年の実務経験あり		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	様々な心理療や心理査定、事例を通して精神疾患、発達障害について幅広く学んでいきます。心理療法や心理査定の基本的な知識を修得すること、また精神疾患、発達障害の方々の特徴や特性をふまえた対応方法について身につけられるようにすることを目的とします。				
到達目標	医療現場で最低限必要であろう精神疾患や発達障害の症状や特性、対応方法の理解、心理療法の概要を知り、対象者からの情報収集の方法、また体験を通して自己を理解し、自らのストレスコーピングについても身につけることができることを目標とします。				
テキスト・参考図書等	教科書　よくわかる臨床心理学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験80%、提出物20%にて評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	%	

履修上の留意事項	必ずしも教科書に従って講義を進めるとは限りませんが、事前に一読下さい。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	臨床心理学の基礎理論、アサーション	各理論の概要、アサーション体験
	2	発達障害①	注意欠陥・多動性障害、行為障害、学習障害
	3	発達障害②	自閉性障害、チック症、精神遅滞、知的障害
	4	不安と身体関連障害①	気分障害（うつ病・双極性感情障害）、睡眠障害
	5	不安と身体関連障害②	薬物・アルコール依存症、摂食障害
	6	不安と身体関連障害③	ストレス関連障害（恐怖症、パニック障害、PTSD、強迫性障害）
	7	不安と身体関連障害④	人格障害、統合失調症
	8	アセスメント①	心理検査法（質問紙法、投影法、作業検査法）の概要他
	9	アセスメント②	初回面接（インテーク面接）の概要他
	10	心理療法①	支持的精神療法、表現療法
	11	心理療法②	訓練療法（自律訓練法）、行動療法（系統的脱感作法）
	12	心理療法③	洞察療法（来談者中心療法）、認知療法
	13	心理療法④	その他の療法（内観療法）
	14	心理療法⑤	芸術療法（描画療法、サイコドラマ、音楽療法、コラージュ療法）
	15	心理療法⑥	ソーシャルスキルトレーニング

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	一般臨床医学 23p205	担当教員 （実務経験）	鬼原　彰 有 ☑　無 ☐　市内の医科大学にて内科学教授として教育に従事、その後、市内病院で内科医として勤務。		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	・臨床系科目の中で、内科学、精神医学などカリキュラムに取り入れられている科目以外の領域を学習するものである。 ・多くの臨床系科目が含まれており、要点のみの講義となるので、さらに他の成書を用いて学習を深めることが必要である。				
到達目標	・下記の診療科目に関して、主要な疾患概要の理解を深める				
テキスト・参考図書等	PT・OT・STのための一般臨床医学　第3版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	欠席せず、予習復習をすること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	外科総論	機械的・非機械的損傷、感染性疾患、抹消血行障害、腫瘍、臓器移植
	2	脳神経系外科	主な脳神経系疾患とリハビリテーション
	3	脳神経系外科	主な脳神経系疾患とリハビリテーション
	4	消化器系外科	主な消化器系疾患とリハビリテーション
	5	消化器系外科	主な消化器系疾患とリハビリテーション
	6	循環器系外科	主な循環器系疾患とリハビリテーション
	7	循環器系外科	主な循環器系疾患とリハビリテーション
	8	救命救急医療	心肺蘇生法、ショック、呼吸管理、中心静脈栄養、輸血法、救急処置、ICU
	9	皮膚疾患	解剖、生理、症状、病態生理、主な皮膚疾患、内科系疾患と皮膚病変
	10	泌尿器科・生殖器疾患	解剖、生理、診断、検査、主な泌尿器科と生殖器疾患
	11	婦人科産科疾患	解剖、生理、妊娠、分娩、出産、異常妊娠と合併症、女性生殖器疾患
	12	眼疾患	解剖、生理、症状、病態生理、主な眼疾患
	13	耳鼻咽喉科疾患	解剖、生理、症状、病態生理、主な耳疾患、鼻疾患、咽頭疾患、喉頭疾患
	14	老年医学とプライマリケア	老年者医療に必要なプライマリケアとリハビリテーション
	15	老年医学とプライマリケア	老年者医療に必要なプライマリケアとリハビリテーション

授業科目 （科目ID）	一般臨床医学 23p205	担当教員 （実務経験）	外部講師 有 ☑ 無 ☐ 病院勤務の臨床医
対象年次・学期	2年・後期	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	講義		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	内部障害学 23p206	担当教員 （実務経験）	鬼原　彰 有 ☑　無 ☐　市内の医科大学にて内科学教授として教育に従事、その後、市内病院で内科医として勤務。		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	・人間の基本的構造とその機能をコントロールする3つのシステムである神経系、内分泌系、免疫系がどのようにして細胞レベル、組織レベル、個体レベルの機能維持とかかわりを有しているかを学び、それをリハビリテーションに応用する。				
到達目標	・各臓器系統別に疾患の成り立ちと診断・治療上の要点を学び、理学療法に応用できる。				
テキスト・参考図書等	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学　第3版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	参考	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	欠席せず、予習復習をすること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	生体学総論（1）	個体・器官・細胞の機能とリハビリテーション
	2	骨・関節・筋疾患	骨・関節・筋の機能と疾患の診断・治療
	3	ニューロンによる細胞性コントロール	脳・神経系機能と疾患の診断・治療
	4	ニューロンによる細胞性コントロール	脳・神経系機能と疾患の診断・治療
	5	ホルモンによる液性コントロール	内分泌の機能と疾患の診断・治療
	6	ホルモンによる液性コントロール	内分泌の機能と疾患の診断・治療
	7	免疫（細胞性・液性）によるコントロール	免疫の機能とアレルギー・膠原病の診断・治療
	8	免疫（細胞性・液性）によるコントロール	免疫の機能とアレルギー・膠原病の診断・治療
	9	生体学総論（2）	個体・器官・細胞の機能とリハビリテーション
	10	消化器系疾患	消化器（消化管・肝・胆・膵）の機能と疾患の診断・治療
	11	消化器系疾患	消化器（消化管・肝・胆・膵）の機能と疾患の診断・治療
	12	代謝系疾患	代謝疾患の診断・治療
	13	循環器系疾患	循環器（呼吸器・心血管・腎）の機能と疾患の診断・治療
	14	循環器系疾患	循環器（呼吸器・心血管・腎）の機能と疾患の診断・治療
	15	血液造血器疾患	血液の機能と疾患の診断・治療

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	運動器障害学 23p207	担当教員 （実務経験）	伊藤　雄人 有 ☑　無 ☐　市内整形外科クリニックで整形外科医として勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	PT・OTにとって安全で効果的な治療をするために必要不可欠な、疫学・発症メカニズム・代表的な検査・治療法を運動器疾患の総論および各論を通じて学習し理解する。				
到達目標	①総論として、整形外科領域における診断法・治療法・外傷学を学習・理解し、それぞれの要点について説明・記述ができる。 ②各論として、各関節に代表的な運動器疾患の症状・発症メカニズム・検査・治療について説明・記述ができる				
テキスト・参考図書等	標準整形外科学　第14版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	積極的に質問すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	整形外科総論	診断・治療総論
	2	疾患疾患総論	外傷総論・軟部組織損傷（末梢神経損傷・脱臼・靭帯損傷）
	3	疾患疾患総論	骨折
	4	疾患疾患総論	軟部組織・骨・関節の感染症
	5	疾患疾患総論	四肢循環障害の診察・診断
	6	疾患疾患総論	代謝性骨疾患・骨腫瘍
	7	疾患疾患総論	関節リウマチ
	8	疾患疾患総論	変形性関節症
	9	疾患各論	足部・足関節疾患
	10	疾患各論	膝関節疾患
	11	疾患各論	股関節疾患
	12	疾患各論	脊椎・胸郭疾患
	13	疾患各論	上肢疾患①（肩関節疾患）
	14	疾患各論	上肢疾患②（肘・手関節疾患）
	15	疾患各論	上肢疾患③（上肢のスポーツ障害）

授業科目 （科目ID）	運動器障害学 23p207	担当教員 （実務経験）	江戸　香苗 有 ☑ 無 ☐ 道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員 （実務経験）	元木　純 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
授業形態	講義		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	神経障害学	担当教員（実務経験）	中村　仁志夫 有 ☑　無 ☐　新潟大学脳研究所で7年間研究の後、北海道大学で神経病理学に携わり、25年以上各養成校で教員として勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	ヒトの精神・身体活動は全身系としての神経系に負うところが大きい。神経系の主要部分は非再生系に属し、傷害された組織の機能（機能障害）を回復、補填するには障害克服の基本戦略に基づく理念（リハビリテーション計画）が重要である。その基軸となるべき神経学を主な疾患の特徴を把握しつつ、毎回の授業後に提示される課題に対する回答の推敲を受けつつ、各自が充実した内容を修得することを目標とする。				
到達目標	1）脳機能の局在と特性について例示し説明できる。 2）運動神経系と感覚神経系の障害を例示し、説明できる。 3）脳血管障害の病態を説明できる。 4）神経変性疾患を例示し、説明できる。 5）脳腫瘍や神経筋疾患を例示し説明できる。 6）認知症の病態を理解し、その対応を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・「病気がみえる」第7巻 脳・神経　第2版（メディックメディア社） ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 「神経内科学」 第4版（医学書院） ・「医療系学生のための病理学」 第4版第19章（講談社）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	42%	毎回のカード（小課題の演習と理解内容の確認及び質問と回答）についての添削と評価（70点満点）と定期試験（筆記・50点満点）の成績とを合わせて全体的評価とする。
	レポート	0%	
	小テスト	0%	
	提出物	58%	
	その他	0%	

履修上の留意事項	1）病理学の本（特に第19章）も常に脇に置くこと。、2）解剖学・生理学の知識を常に復習すること。、3）新聞や雑誌の病気の記事をよく読むこと。 4）主要な英単語については和名だけではなく、英語名による習得に努めること。 5）毎回のカードは各自の努力によって作成し、友達の書いたものを引き写す行為は自尊心を培うために極力避けること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	神経学の歴史における重要人物の把握、医療倫理の基本	医聖ヒポクラテス、神経学の父シャルコー、脳外科の父クッシング、変性性認知症の父アルツハイマー、遺伝性舞踏病の発見者ハンチントン、看護の母ナイチンゲール、教育者オスラー、X線の父レントゲン、錐体外路系の提唱者平澤興らの業績を知ることにより、医療人存在の理念を学ぶ
	2	神経解剖学（1）	脳幹の範囲、脳機能の局在、優位半球と劣位半球、日本人の脳、錐体路
	3	神経解剖学（2）	錐体外路系、感覚路、脳血管系の解剖、髄液循環、血液脳関門
	4	神経解剖学（3）	自律神経系、脊髄の解剖、脳神経症状の見方
	5	神経学的診断法	運動調節・感覚の検査、腱反射など、画像検査の種類と対象となる疾患
	6	神経学的検査法	CTとMRI、脳波、髄液検査などの基本的知識と応用（てんかんを含む）
	7	意識障害・運動麻痺	意識障害の分類、脳死の定義、運動麻痺と錐体路のレベル
	8	錐体路と錐体外路系	随意運動と不随意運動、運動ニューロン病（ALSほか）、パーキンソン症候群
	9	運動失調について	ハンチントン病、脊髄小脳変性症など（多系統萎縮症を含む）の症候と分類
	10	失語症と認知症	失語症の分類、認知症の分類と対策、アルツハイマー病など
	11	脳血管障害	脳梗塞（脳血栓と脳塞栓）、脳出血、くも膜下出血、脳動脈瘤など
	12	脳腫瘍	グリオーマと非グリオーマ（髄膜腫ほか）、母斑症
	13	神経難病（1）脱髄疾患など	多発性硬化症、副腎白質ジストロフィー、脊髄空洞症、先天性代謝異常
	14	神経難病（2）神経筋疾患など	筋ジストロフィー症、重症筋無力症、栄養障害、ミトコンドリア脳筋症など
	15	プリオン病ほか、まとめ	ヤコブ病とBSE、臨床神経学の今後の課題

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	精神障害学	担当教員（実務経験）	鵜飼　渉 有 ☑　無 ☐　市内医科大学にて大学教員、精神科医として15年以上勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	各種精神疾患の基本症状と治療法について、最新知見を織り交ぜながら講義する。リハビリテーションにおける患者の理解に必要な基礎知識を学ぶ。				
到達目標	各種精神疾患の基本症状と治療法について理解する。				
テキスト・参考図書等	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　精神医学　第4版 参考図書：新精神医学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	生物的な視点、心理的な視点、そして社会的な視点から精神疾患や精神障害を学ぶ。精神医学の知識を持たずして作業療法の治療実践は成り立ちません。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	精神医学総論、成因・分類、生物学的精神医学	精神医学とは、概念、歴史、3つの成因について、ストレス脆弱性モデル
	2	精神医学総論、成因・分類、生物学的精神医学	精神医学とは、概念、歴史、3つの成因について、ストレス脆弱性モデル
	3	気分障害、人格障害、感情障害の生物学	人格とは、行動の障害、性の障害、気分障害の概念、うつ病、操うつ病、持続性気分障害、経過及び予後、治療と援助、リハビリテーション
	4	気分障害、人格障害、感情障害の生物学	人格とは、行動の障害、性の障害、気分障害の概念、うつ病、操うつ病、持続性気分障害、経過及び予後、治療と援助、リハビリテーション
	5	統合失調症	成因、疫学、症状の捉え方、診断、経過と予後、社会生活面での障害、治療とリハビリテーション
	6	統合失調症	成因、疫学、症状の捉え方、診断、経過と予後、社会生活面での障害、治療とリハビリテーション
	7	神経性障害、心身症	神経症の捉え方、恐怖及び不安を中心とするもの強迫を中心とするもの、ストレス関連障害、解離・転換を中心とするもの、身体表現性、その他、定義と概要、心身症としての諸疾患
	8	神経性障害、心身症	神経症の捉え方、恐怖及び不安を中心とするもの強迫を中心とするもの、ストレス関連障害、解離・転換を中心とするもの、身体表現性、その他、定義と概要、心身症としての諸疾患
	9	アルコール依存症、薬物依存症	診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール依存症候群、アルコール依存症を基盤に生じる精神障害、アルコール依存症の子供の問題、地域ネットワーク、家族の問題、睡眠薬・抗不安薬、有機溶剤・覚せい剤・大麻・モルヒネ・コカイン関連、地域ネットワークとチームアプローチ
	10	アルコール依存症、薬物依存症	診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール依存症候群、アルコール依存症を基盤に生じる精神障害、アルコール依存症の子供の問題、地域ネットワーク、家族の問題、睡眠薬・抗不安薬、有機溶剤・覚せい剤・大麻・モルヒネ・コカイン関連、地域ネットワークとチームアプローチ
	11	児童・青年期障害、発達障害	精神・心理発達の特性、行動及び情緒障害、その他の精神障害、心理的発達の障害とは、特異的発達障害、広汎性発達障害、治療とリハビリテーション
	12	児童・青年期障害、発達障害	精神・心理発達の特性、行動及び情緒障害、その他の精神障害、心理的発達の障害とは、特異的発達障害、広汎性発達障害、治療とリハビリテーション
	13	心理検査、心理療法、メンタルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検査、各種心理療法とその実際
	14	心理検査、心理療法、メンタルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検査、各種心理療法とその実際
	15	老年期精神医学	心理社会的特性、初老期・老年期の精神障害、リエゾン精神医学とは、リエゾン精神医学が必要となる精神疾患・症状、精神的・心理的問題、精神障害と刑法、民法、精神鑑定、精神の病と社会の関係、学校・職場・家庭のメンタルヘルス

授業科目 （科目ID）	精神障害学	担当教員	川村　舞
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内医科大学にて臨床心理士として20年以上勤務。札幌市スクールカウンセラーとして10年以上従事
対象年次・学期	2年・前期	担当教員	津山　雄亮
授業形態	講義	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内医科大学にて臨床心理士として5年以上勤務。札幌市スクールカウンセラーとして2年従事
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	発達障害学 23p210	担当教員 （実務経験）	佐々木智教 有 ☑ 無 ☐ 市内小児施設にて理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8	時間数	15時間
授業目的	「子どもは小さな大人ではない。」子どものからだの特徴、子ども特有の疾患・病態について学ぶ。また、近年その重要性が増している障害児の問題、障害児に対する医療の提供体制について重点的に学ぶ。				
到達目標	子ども特有の疾患・病態について理解する。				
テキスト・参考図書等	言語聴覚士のための基礎知識、小児科学・発達障害学　第3版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	医療を志す者としての自覚を持ち、学習意欲を保って授業に臨むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、小児科学概論	小児科学とは。小児科学を取り巻く環境の変化。小児医療における理学療法士・作業療法士の役割。
	2	胎児・周産期、新生児・乳児健診	胎芽病と胎児病、子宮内発育不全、周産期障害など。出生から退院まで。乳児の発達。乳児健診
	3	遺伝疾患・先天異常、神経疾患・てんかん	遺伝性疾患、染色体異常、奇形、先天異常。神経・筋疾患、てんかん、水頭症、中枢神経奇形、頭部外傷
	4	その他の疾患	循環器、呼吸器、消化器、代謝、内分泌、感染症、免疫、アレルギー、泌尿器、脳腫瘍
	5	小児の発達と成長、運動・知的・発達障害	発達の概念。健常な発達。小児の成長。運動発達障害、知的障害、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）
	6	重症心身障害	重症心身障害の特徴、側湾、姿勢異常、筋緊張亢進、摂食・嚥下の異常、呼吸障害、気管切開・咽頭気管分離。
	7	医療的ケア	在宅で医療的ケアを必要とする小児と家族の支援、訪問看護と訪問リハの連携、発達支援としての外来リハ。
	8	小児の在宅医療	小児の在宅医療における理学療法士・作業療法士の役割と期待するもの。
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	臨床運動学 23p211	担当教員 （実務経験）	浜本　浩一 有 ☑　無 ☐　道内外の総合病院等で理学療法士として16年間勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	・理学療法評価における動作観察・分析の位置づけを理解し、健常者や患者の姿勢、動作観察・分析ができる。①姿勢と動作の観察に必要な用語を使うことができる。②基本姿勢、基本動作、歩行の観察を記述することができる。③基本姿勢、基本動作、歩行について観察により発見した特徴を図示することができる。④基本姿勢、基本動作、歩行の観察からとその特徴や異常を発見し、その要因となる機能障害を導き出すことができる。				
到達目標	正常な基本動作のメカニズムを理解し、動作分析を身につける。				
テキスト・参考図書等	動作分析　臨床活用講座 観察による歩行分析				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	前期・後期定期試験（筆記）、前期小テスト、後期ポスター発表を総合して評価する。
	レポート	%	
	小テスト	10%	
	提出物	%	
	その他	10%	

履修上の留意事項	学生間での実習は、健常な動作の理解には不可欠なので集中して取り組むように。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	動作分析の基礎1	臨床運動学とは　身体運動の分析方法（運動・動作・行為）
	2	動作分析の基礎2	日常生活活動と基本動作の関係
	3	動作観察・動作分析	身の回り動作の細分化
	4	動作分析の基礎3	基本動作の評価方法（動作・運動分析）
	5	姿勢観察・分析	臥位・座位・立位、姿勢観察・分析の実際
	6	バイオメカニクス1	体重心の求め方、身体に働く力（重力、床反力、摩擦力、外力）
	7	バイオメカニクス2	力の合成と分解、てこ、関節モーメントと筋活動
	8	グループワーク1	授業方法の説明
	9	グループワーク2	寝返り動作 寝返り動作のポスター発表
	10	グループワーク3	寝返り動作 寝返り動作のポスター発表
	11	グループワーク4	起き上がり動作 起き上がり動作のポスター発表
	12	グループワーク5	起き上がり動作 起き上がり動作のポスター発表
	13	グループワーク6	起き上がり動作 起き上がり動作のポスター発表
	14	グループワーク7	立ち上がり動作 立ち上がり動作のポスター発表
	15	グループワーク8	立ち上がり動作 立ち上がり動作のポスター発表

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・ 履修内容	16	グループワーク9	立ち上がり動作 立ち上がり動作のポスター発表
	17	グループワーク10	歩行
	18	グループワーク11	歩行
	19	グループワーク12	歩行のポスター発表
	20	異常歩行の観察と分析	中枢神経障害の歩行
	21	異常歩行の観察と分析	中枢神経障害の歩行
	22	異常動作の観察と分析	運動器障害の歩行
	23	異常動作の観察と分析	運動器障害の歩行

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	理学療法研究法Ⅱ 23p212	担当教員 （実務経験）	横野　裕行 有 ☑　無 ☐　道内・外の病院で理学療法士として8年勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	・理学療法において研究とは、臨床で起こる様々な問題を解決するためのプロセスである。 ・本科目では研究の意義を理解すること、統計処理について理解すること。				
到達目標	・研究の意義を理解し、自ら疑問を解決しようと行動できる ・統計の考え方を理解できること				
テキスト・参考図書等	なし				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験にて評定する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	自ら能動的に調べる、考えることが必要な授業です。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション・研究方法①	理学療法士が研究する必要性・方法を知る
	2	研究方法②	理学療法士が研究する必要性・方法を知る
	3	研究方法③	信頼性・妥当性、研究デザインについて理解する
	4	統計学①	母集団・標本・統計学的推論、尺度について理解する
	5	統計学②	散らばり、標準偏差について理解する
	6	統計学③	正規分布、パラメトリック・ノンパラメトリックについて理解する
	7	統計学④	対応がある・対応がないとは何か、差がある・関係があるとは何か理解する
	8	統計学⑤	感度・特異度、陰性・陽性適中率、偽陽性・偽陰性について理解する
	9	研究計画を立てよう	自身が知りたいことを考え・まとめる
	10	研究計画を立てよう	自身が知りたいことを考え・まとめる
	11	研究計画を立てよう	自身が知りたいことを考え・まとめる
	12	研究計画を立てよう	自身が知りたいことを考え・まとめる
	13	研究計画を立てよう	自身が知りたいことを考え・まとめる
	14	研究計画を立てよう	自身が知りたいことを考え・まとめる
	15	研究計画を立てよう ～発表～	研究計画を発表する

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	理学療法評価法Ⅱ 23p213	担当教員 （実務経験）	浜本　浩一 有 ☑　無 ☐　道内外の総合病院等で理学療法士として16年間勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	30	時間数	60時間
授業目的	1. 解剖学・運動学で学習した内容と評価の意義・方法を関連付けて考えることができる。 2. 患者さんに検査実施にあたり、必要な説明と禁忌動作や注意点等のリスク管理ができる。 3. 1つの検査結果において異常や制限の原因を明らかにできる（検査から考えられる問題）。 4. 複数の検査項目から考えられる問題点を説明・記述できる（統合と解釈）。				
到達目標	各種検査法を理解し、統合と解釈ができる。				
テキスト・参考図書等	ｼﾝﾌﾟﾙ理学療法学ｼﾘｰｽﾞ理学療法評価学テキスト　第2版 理学療法評価学　第6版補訂版 新・徒手筋力検査法　原著第10版［DVD付］ 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学　別巻　脳画像				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	・定期試験（筆記：中間・前期・後期3回の合算の60%以上で合格）
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	解剖・生理・運動学の復習をして授業に臨むこと。授業は触診を行いやすく、動きやすい服装を用意すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	1年次内容の復習	形態計測、ROM－T「上肢」「下肢」
	2	1年次内容の復習	形態計測、ROM－T「上肢」「下肢」
	3	評価の意義	end　feel、抵抗等尺運動の意義、筋力テストについて学ぶ
	4	評価の意義	end　feel、抵抗等尺運動の意義、筋力テストについて学ぶ
	5	徒手筋力テスト	徒手筋力テストについて学ぶ
	6	徒手筋力テスト	徒手筋力テストについて学ぶ
	7	徒手筋力テスト	徒手筋力テストについて学ぶ
	8	徒手筋力テスト	徒手筋力テストについて学ぶ
	9	整形外科特殊テスト	整形外科特殊テストの意義とその方法について学ぶ
	10	整形外科特殊テスト	整形外科特殊テストの意義とその方法について学ぶ
	11	感覚検査・疼痛検査	表在・深部・複合感覚・疼痛の検査法について学ぶ
	12	感覚検査・疼痛検査	表在・深部・複合感覚・疼痛の検査法について学ぶ
	13	深部腱反射テスト	深部腱反射・病的反射の検査法について学ぶ
	14	深部腱反射テスト	深部腱反射・病的反射の検査法について学ぶ
	15	筋緊張テスト	筋緊張の検査法について学ぶ

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	筋緊張テスト	筋緊張の検査法について学ぶ
	17	バランス検査	バランス検査法について学ぶ
	18	バランス検査	バランス検査法について学ぶ
	19	協調性検査	失調について学ぶ
	20	協調性検査	失調について学ぶ
	21	片麻痺の運動機能	Brunnstrom Stage・片麻痺機能検査について学ぶ
	22	片麻痺の運動機能	Brunnstrom Stage・片麻痺機能検査について学ぶ
	23	脳神経・高次脳機能検査、呼吸機能	脳神経・高次機能について学ぶ、呼吸機能について学ぶ
	24	脳神経・高次脳機能検査、呼吸機能	脳神経・高次機能について学ぶ、呼吸機能について学ぶ
	25	統合・解釈①	学んだ検査方法から得られる結果をもとに統合・解釈し、患者像をつかむことについて学ぶ
	26	統合・解釈①	学んだ検査方法から得られる結果をもとに統合・解釈し、患者像をつかむことについて学ぶ
	27	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
	28	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
	29	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
	30	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う

授業科目 （科目ID）	理学療法評価法Ⅱ 23p213	担当教員 （実務経験）	武田　祐貴 有 ☑ 無 □　市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員 （実務経験）	山内　真帆 有 ☑ 無 □　道内病院にて理学療法士として8年間勤務
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	元木　純 有 ☑ 無 □　市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員 （実務経験）	他 有 □ 無 □
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □

2023年度　専門学校北海道リハビリテーション大学校　理学療法学科

授業科目（科目ID）	理学療法評価法実習 23p214	担当教員 （実務経験）	浜本 浩一 有 ☑ 無 ☐ 道内外の総合病院等で理学療法士として16年間勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	1. 患者さんに、検査実施にあたり必要な説明と禁忌動作や注意点等のリスク管理ができる。 2. 各検査が患者さんにかける負荷を理解するとともに、患者さんの疲労に配慮することができる。 3. 各検査手技を的確に実施できる。 4. 検査や動作分析の結果を説明・記述ができる。				
到達目標	各種検査法および評価法を身につける。				
テキスト・参考図書等	ｼﾝﾌﾟﾙ理学療法学ｼﾘｰｽﾞ理学療法評価学テキスト　第2版 理学療法評価学　第6版補訂版 新・徒手筋力検査法　原著第10[DVD付] 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学　別巻　脳画像				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	・定期試験（実技：2回の合算の平均6割以上で合格）
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物（チェックテスト）	必須	
	その他	%	

履修上の留意事項	・解剖・生理・運動学の復習をして授業に臨むこと。、・授業は触診を行いやすく、動きやすい服装を用意すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	徒手筋力テスト	筋力を測定する方法の中の徒手筋力テストについて学ぶ
	2	徒手筋力テスト	筋力を測定する方法の中の徒手筋力テストについて学ぶ
	3	整形外科特殊テスト	整形外科特殊テストについて学ぶ
	4	整形外科特殊テスト	整形外科特殊テストについて学ぶ
	5	感覚検査・疼痛検査	表在・深部・複合感覚の検査法について学ぶ
	6	感覚検査・疼痛検査	表在・深部・複合感覚の検査法について学ぶ
	7	筋緊張テスト	筋緊張の検査法について学ぶ
	8	筋緊張テスト	筋緊張の検査法について学ぶ
	9	バランス検査	バランス検査法について学ぶ
	10	バランス検査	バランス検査法について学ぶ
	11	協調性検査	協調性検査法について学ぶ
	12	協調性検査	協調性検査法について学ぶ
	13	片麻痺機能検査	Brunnstrom　Stage・片麻痺機能検査について学ぶ
	14	片麻痺機能検査	Brunnstrom　Stage・片麻痺機能検査について学ぶ
	15	脳神経検査	脳神経検査法について学ぶ

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	高次脳機能検査	高次機能検査法について学ぶ
	17	高次脳機能検査	高次機能検査法について学ぶ
	18	運動失調検査	運動失調の検査法について学ぶ
	19	運動失調検査	運動失調の検査法について学ぶ
	20	呼吸機能検査	呼吸機能の検査法について学ぶ
	21	呼吸機能検査	呼吸機能の検査法について学ぶ
	22	姿勢・動作分析	姿勢・動作の診かたを学ぶ
	23	姿勢・動作分析	姿勢・動作の診かたを学ぶ

授業科目 （科目ID）	理学療法評価法実習 23p214	担当教員 （実務経験）	武田 祐貴 有 ☑ 無 □　市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員 （実務経験）	山内 真帆 有 ☑ 無 □　道内病院にて理学療法士として8年間勤務
授業形態	実習		
		担当教員 （実務経験）	元木 純 有 ☑ 無 □　市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □
		担当教員 （実務経験）	有 □ 無 □

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

04ー^	運動療法 23p215	担当教員 （実務経験）	江戸　香苗 有 ☑　無 ☐　道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	30	時間数	60時間
授業目的	運動療法とは理学療法の中でも根幹をなすものである。この授業では運動療法の基本的な原則・方法論について学び、個々の症状に対する治療プログラム実施に役立てていく。				
到達目標	①運動療法の概要と背景、原則、方法論等について説明できる。 ②運動の効果と弊害について、科学的根拠にもとづいて説明できる。 ③実際の患者に対して運動療法中心の治療プログラムを立案できる。				
テキスト・参考図書等	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第4版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	運動療法の治療効果の背景として解剖学、生理学、運動学の知識が不可欠である。運動療法の履修と並行してさらに知識を深めること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、運動療法の概念	運動療法の概念、この科目を学ぶ目的を理解する。
	2	運動療法の歴史、リスク管理	運動療法の発展してきた歴史とその概念、運動療法実施時のリスク管理について学習する
	3	基本的運動	身体運動の基本的種類について、運動を発現する力と筋収縮様式による内容から理解する
	4	関節可動域運動、伸張運動	正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について学習する
	5	関節可動域運動、伸張運動	正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について学習する
	6	関節可動域運動、伸張運動	正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について学習する
	7	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する
	8	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する
	9	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する
	10	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する
	11	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する
	12	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する
	13	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する
	14	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する
	15	持久力増強運動	筋持久力、全身持久力、持久力増強運動の目的、方法について学習する

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	持久力増強運動	筋持久力、全身持久力、持久力増強運動の目的、方法について学習する
	17	持久力増強運動	筋持久力、全身持久力、持久力増強運動の目的、方法について学習する
	18	運動制御と運動学習理論に基づく運動療法	運動制御と運動学習の理論を理解し、理論に基ずく練習の構成について学習する
	19	協調性運動障害に対する運動療法	運動の協調性を保つための機序、協調性運動の目的と方法について学習する
	20	バランス障害に対する運動療法	バランス障害の分類、運動療法の理論と方法について学習する
	21	姿勢障害に対する運動療法	姿勢障害の分類、運動療法の理論と方法について学習する
	22	発達と運動療法	発達とその障害、発達を促す運動療法について学習する
	23	感覚障害・筋緊張異常に対する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法の理論と方法を学習する
	24	感覚障害・筋緊張異常に対する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法の理論と方法を学習する
	25	痛みに対する運動療法	痛みの定義・原因、痛みに対する運動療法について学習する
	26	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方について学習する
	27	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方について学習する
	28	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方について学習する
	29	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方について学習する
	30	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方について学習する

授業科目 （科目ID）	運動療法 23p215	担当教員 （実務経験）	小野　直也 有 ☑ 無 ☐ 市内回復期病院で理学療法士として5年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	運動療法実習 23p216	担当教員 （実務経験）	江戸　香苗 有 ☑　無 ☐　道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	この授業では運動療法で学習した内容について実習を通して学び、理解を深めていく。				
到達目標	①運動療法の原則、目的、方法論等について説明できる。 ②各運動療法の基本的な手技を身につけ、対象者に実施できる。 ③実際の患者に対して立案した治療プログラムを計画に沿って実施でき修正ができる。				
テキスト・参考図書等	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第4版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	実技試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	学内授業では健常者に対する手技の実施が主となるが、運動療法は理学療法士が行なう根幹となる治療手技である。まずは健常者に対して正確にかつ安全に実施できるよう、十分に練習すること。授業は実技に適した服装で受講すること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	基本的運動、リスク管理	身体運動の基本的種類について、運動を発現する力と筋収縮様式による内容を体験する。運動療法実施時のリスク管理について実習する。
	2	関節可動域運動、伸張運動	関節可動域を維持／拡大するための関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について実習する。
	3	関節可動域運動、伸張運動	関節可動域を維持／拡大するための関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について実習する。
	4	関節可動域運動、伸張運動	関節可動域を維持／拡大するための関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について実習する。
	5	関節可動域運動、伸張運動	関節可動域を維持／拡大するための関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について実習する。
	6	筋力増強運動	筋力増強運動の目的と方法について実習する。
	7	筋力増強運動	筋力増強運動の目的と方法について実習する。
	8	筋力増強運動	筋力増強運動の目的と方法について実習する。
	9	筋力増強運動	筋力増強運動の目的と方法について実習する。
	10	筋力増強運動	筋力増強運動の目的と方法について実習する。
	11	筋力増強運動	筋力増強運動の目的と方法について実習する。
	12	持久力増強運動	持久力増強運動の目的と方法について実習する。
	13	持久力増強運動	持久力増強運動の目的と方法について実習する。
	14	持久力増強運動	持久力増強運動の目的と方法について実習する。
	15	運動制御と運動学習理論に基づく運動療法	運動学習理論に基づく運動療法について実習する。

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	痛みに対する運動療法	痛みに対する運動療法について実習する。
	17	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムを実際に組み立て、実施する。
	18	姿勢障害に対する運動療法	姿勢障害に対する運動療法を実習する。
	19	発達と運動療法	発達とその障害、発達を促す運動療法について実習する。
	20	感覚障害・筋緊張異常に対する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法を実習する。
	21	痛みに対する運動療法	痛みに対する運動療法について実習する。
	22	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムを実際に組み立て、実施する。
	23	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムを実際に組み立て、実施する。

授業科目 （科目ID）	運動療法実習 23p216	担当教員 （実務経験）	小野　直也 有 ☑ 無 ☐ 市内回復期病院で理学療法士として5年勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	実習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	物理療法 23p217	担当教員 （実務経験）	吉田　智子 有 ☑　無 ☐　市内整形外科で理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	各種物理療法について、原理・生理学的作用・効果の機序について理解する				
到達目標	物理療法の種類・原理・目的・効果と適応・手段・リスク管理などを、理由も含め説明・記述出来る事。 物理療法手段を用いた研究を計画し、結果に対してわかりやすい説明・発表が出来る事。				
テキスト・参考図書等	最新理学療法学講座　物理療法学（医歯薬出版株式会社）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90%	定期試験90%、実験についての発表内容10%を評価し、最終成績は総合点にて評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	10%	

履修上の留意事項	講義と実際の物理療法機器を使用した実習を組み合わせて行うため、欠席しないように心がけること。またグループワークでは研究報告書をまとめる力も必要となるので、日頃から論文などに目を通すように心がけること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	理学療法における物理療法の役割・位置づけ、物理療法の対象となる病態の整理
	2	オリエンテーション	理学療法における物理療法の役割・位置づけ、物理療法の対象となる病態の整理
	3	温熱療法	温熱療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について
	4	各論：ホットパック	ホットパック原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について
	5	各論：パラフィン浴	パラフィン浴の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について
	6	寒冷療法	氷を使った寒冷療法、寒冷浴
	7	寒冷療法	氷を使った寒冷療法、寒冷浴
	8	電磁波療法	電磁波療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について
	9	電磁波療法	電磁波療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について
	10	超音波療法	超音波療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について
	11	超音波療法	超音波療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について
	12	グループワーク	グループごとでの研究計画・実施
	13	グループワーク	グループごとでの研究計画・実施
	14	グループワーク	グループごとでの研究計画・実施
	15	グループ発表	

授業科目 （科目ID）	物理療法 23p217	担当教員 （実務経験）	小野　直也 有 ☑ 無 ☐ 市内回復期病院で理学療法士として5年勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	日常生活活動実習 23p218	担当教員 （実務経験）	竹中　謙将 有 ☑　無 ☐　道内の病院で10年、老人保健施設で7年、理学療法士として勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	23	時間数	45時間
授業目的	授業を通して、障がい像を明確に捉え、その人にあった日常生活活動方法を考える。さらに安全に介助・訓練方法を実践する。また、様々なADL評価法を学び、演習する。				
到達目標	①日常生活活動を安全で円滑に行う方法を実施できる。 ②障がいを持つ人の日常生活活動方法を説明できる。 ③ADL評価とその方法、定義について説明と実施ができる。				
テキスト・参考図書等	PT・OTビジュアルテキスト　ADL 姿勢と動作　第3版　ADLその基礎から応用				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	前期は筆記試験80点と実技試験20点の合計で評価を行い、本試験で60点に満たないものは再試験にて筆記試験100点満点中60点以上を合格とする。 後期試験は筆記試験100点満点で評価を行う。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	この講義は暗記力だけでなく、応用力、想像力が重要になります。普段の生活でどのような活動、動作がなされているか、また身体機能や環境の変化によってどう影響するのか常に意識するよう心がけること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	
	2	動作練習の基本	ADL訓練、基本動作訓練を進める上で必要な運動を活用し効果的な練習・指導方法について学ぶ
	3	ポジショニング	ポジショニング（良肢位）についてその方法を学ぶ
	4	ADL評価法	ADL評価法について学ぶ
	5	ADL評価法	ADL評価法について学ぶ
	6	動作の分析	基本動作を分析する
	7	動作の分析	基本動作を分析する
	8	関節リウマチのADL	関節リウマチのADLについて学ぶ
	9	変形性関節症のADL	変形性関節症のADLについて学ぶ
	10	下肢骨折のADL	下肢骨折のADLについて学ぶ
	11	移動補助具の選択、操作について	移動補助具の選択、操作について学ぶ
	12	身のまわり動作練習	起居・移動動作、身のまわり動作の意味と動作方法、訓練方法について学ぶ
	13	複合動作練習のポイント	複合動作の練習方法について学ぶ
	14	神経変性疾患のADL	神経変性疾患のADLについて学ぶ
	15	神経変性疾患のADL	神経変性疾患のADLについて学ぶ

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	脳卒中片麻痺のADL	脳卒中片麻痺のADLについて学ぶ
	17	脳卒中片麻痺のADL	脳卒中片麻痺のADLについて学ぶ
	18	脳卒中片麻痺のADL	脳卒中片麻痺のADLについて学ぶ
	19	脳卒中片麻痺のADL	脳卒中片麻痺のADLについて学ぶ
	20	脊髄損傷のADL	脊髄損傷のADLについて学ぶ
	21	脊髄損傷のADL	脊髄損傷のADLについて学ぶ
	22	脊髄損傷のADL	脊髄損傷のADLについて学ぶ
	23	脊髄損傷のADL	脊髄損傷のADLについて学ぶ

授業科目 （科目ID）	日常生活活動実習 23p218	担当教員 （実務経験）	吉田　香織 有 ☑ 無 ☐ 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	実習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	運動器障害理学療法学 23p219	担当教員 （実務経験）	江戸　香苗 有 ☑　無 ☐　道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必須	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	運動器疾患の理学療法について、各疾患の特徴的症状・障害、解剖・運動・生理学的知識といった基礎知識を理解する。基礎知識を基に理学療法評価項目の選択、統合と解釈、問題点抽出・整理・優先順位の明確化ができるようになる。				
到達目標	1. 各疾患の特徴的症状・障害、解剖・運動・生理学知識について記述、説明できる。 2. 基礎知識を基に評価項目を挙げ、根拠を説明できる。 3. 評価.結果から考えられる事、その他の評価との関連、動作・生活との関連を説明・記述ができる。 4. 結果を基に問題点抽出・整理・優先順位の明確化ができる。				
テキスト・参考図書等	Crosslink 理学療法学テキスト　運動器障害理学療法学 局所と全身からアプローチする運動器の運動療法　第1版 リハビリに直結する！運動器画像の見かた 義肢装具学　第2版 標準整形外科学　第13版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	・解剖学、生理学、運動学の復習をして授業に臨むこと ・身体の露出が必要な授業は、動きやすい服装で参加すること、 ・授業態度の不良な者は厳しい対応をする。 ・医療人としての適正及び態度が不適な者、学習意欲のない者は授業への参加を認めない。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	運動器疾患理学療法の基礎	運動器疾患理学療法の基礎
	2	骨折①	骨折の理学療法〔基礎知識～評価〕
	3	骨折②	骨折の理学療法〔基礎知識～評価〕
	4	末梢神経障害	末梢神経障害と理学療法〔基礎知識～評価〕
	5	変形性関節症①	変形性関節症の理学療法〔基礎知識～評価〕
	6	変形性関節症②	変形性関節症の理学療法〔基礎知識～評価〕
	7	捻挫、靭帯損傷、脱臼①	捻挫、靭帯損傷、脱臼の理学療法〔基礎知識〕
	8	捻挫、靭帯損傷、脱臼②	捻挫、靭帯損傷、脱臼の理学療法〔評価〕
	9	腰部疾患	腰部疾患の理学療法〔基礎知識～評価〕
	10	肩関節疾患	肩関節疾患の理学療法〔基礎知識～評価〕
	11	切断①	切断・総論、切断のリハビリテーション、切断の理学療法
	12	切断②	切断・総論、切断のリハビリテーション、切断の理学療法
	13	切断③	切断・総論、切断のリハビリテーション、切断の理学療法
	14	関節リウマチ①	関節リウマチ〔基礎知識から治療まで〕
	15	関節リウマチ②	関節リウマチ〔基礎知識から治療まで〕

授業科目 （科目ID）	運動器障害理学療法学 23p219	担当教員 （実務経験）	元木　純 有 ☑ 無 ☐ 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員 （実務経験）	吉田　香織 有 ☑ 無 ☐ 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	山内　真帆 有 ☑ 無 ☐ 道内の病院で理学療法士として8年勤務
		担当教員 （実務経験）	他 有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	神経障害理学療法学 23p220	担当教員 （実務経験）	山内　真帆 有 ☑　無 ☐　道内の病院に理学療法士として8年勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15	時間数	30時間
授業目的	脳血管障害や脊髄損傷等、理学療法の主要対象疾患についての知識の統合をはかる。各疾患における病態像、障害像の理解を深め、それに応じた理学療法評価項目の選択と目標設定、治療計画立案までの知識・技術の統合をはかることを目的とする。				
到達目標	・脳血管障害、脊髄損傷、神経筋疾患の病態、評価について説明できる。 ・理学療法治療の流れについて説明できる。				
テキスト・参考図書等	標準理学療法学専門分野　神経理学療法学　第3版 病気が見える　Vol.7　脳・神経　第2版 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学　別巻　脳画像 脊髄損傷理学療法マニュアル第3版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	実践的な授業のため、分らない事などを次に持ち越さないでその場で解決する（理解する）積極性を求める。基礎疾患の知識や理学療法評価法などと重複する話が多いので、しっかり復習して望むこと。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	脳血管障害	脳血管障害・総論、脳血管障害の合併症と予後判定、脳血管障害の理学療法評価、脳血管障害の理学療法
	2	脳血管障害	脳血管障害・総論、脳血管障害の合併症と予後判定、脳血管障害の理学療法評価、脳血管障害の理学療法
	3	脳血管障害	脳血管障害・総論、脳血管障害の合併症と予後判定、脳血管障害の理学療法評価、脳血管障害の理学療法
	4	脳血管障害	脳血管障害・総論、脳血管障害の合併症と予後判定、脳血管障害の理学療法評価、脳血管障害の理学療法
	5	脳血管障害	脳血管障害・総論、脳血管障害の合併症と予後判定、脳血管障害の理学療法評価、脳血管障害の理学療法
	6	脳血管障害	脳血管障害・総論、脳血管障害の合併症と予後判定、脳血管障害の理学療法評価、脳血管障害の理学療法
	7	脊髄損傷	脊髄損傷についての総論、脊髄損傷の合併症・予後、脊髄損傷の理学療法評価、脊髄損傷の理学療法
	8	脊髄損傷	脊髄損傷についての総論、脊髄損傷の合併症・予後、脊髄損傷の理学療法評価、脊髄損傷の理学療法
	9	脊髄損傷	脊髄損傷についての総論、脊髄損傷の合併症・予後、脊髄損傷の理学療法評価、脊髄損傷の理学療法
	10	脊髄損傷	脊髄損傷についての総論、脊髄損傷の合併症・予後、脊髄損傷の理学療法評価、脊髄損傷の理学療法
	11	脊髄損傷	脊髄損傷についての総論、脊髄損傷の合併症・予後、脊髄損傷の理学療法評価、脊髄損傷の理学療法
	12	神経難病	パーキンソン病の評価・理学療法、脊髄小脳変性症の評価・理学療法、筋萎縮性側索硬化症の評価・理学療法
	13	神経難病	パーキンソン病の評価・理学療法、脊髄小脳変性症の評価・理学療法、筋萎縮性側索硬化症の評価・理学療法
	14	神経難病	パーキンソン病の評価・理学療法、脊髄小脳変性症の評価・理学療法、筋萎縮性側索硬化症の評価・理学療法
	15	神経難病	パーキンソン病の評価・理学療法、脊髄小脳変性症の評価・理学療法、筋萎縮性側索硬化症の評価・理学療法

授業科目 （科目ID）	神経障害理学療法学 23p220	担当教員 （実務経験）	吉田　香織 有 ☑ 無 ☐ 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目（科目ID）	内部障害理学療法学 23p221	担当教員 （実務経験）	横野　裕行 有 ☑　無 ☐　道内・外の病院で理学療法士として8年勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8	時間数	15時間
授業目的	糖尿病・慢性腎臓病の基礎知識と合併症、運動療法やリスク管理、運動処方について学ぶ。				
到達目標	糖尿病・慢性腎臓病の運動療法とリスク管理について説明できる。				
テキスト・参考図書等	病気が見える　糖尿病・代謝・内分泌　Vol 3　第5版 最新理学療法学講座 内部障害理学療法学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	定期試験100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	講義時間で説明した内容は、できる限りその時間のうちに覚え理解するように努めること。そのため、わからない所は質問し早めに解決すること。2年次履修の内部障害学、1年次履修の解剖学・生理学がベースとなるため復習をすること。また普段使わない専門用語が多く出てくるので丸暗記ではなく意味を覚えること。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション・代謝障害について	代謝の復習、代謝障害、肥満について学習する
	2	糖尿病総論	糖尿病の病態・検査・治療方法について学習する
	3	糖尿病の合併症	糖尿病の合併症やその評価方法、リスク管理について学習する
	4	糖尿病の治療	糖尿病の食事療法・運動療法の方法について学習する
	5	行動変容	糖尿病疾患に対して、ただ理学療法をするだけではなく、行動を継続させる手法を理解する
	6	腎臓・腎不全 総論	腎臓について、慢性腎臓病の病態・検査・治療方法について学習する
	7	腎不全の理学療法	慢性腎臓病の評価・理学療法の方法について学習する
	8	症例検討・評価体験	糖尿病・慢性腎臓病の症例検討、6分間歩行テストの経験をする

2023年度　　専門学校北海道リハビリテーション大学校　　理学療法学科

授業科目 （科目ID）	臨床実習Ⅰ 23p222	担当教員 （実務経験）	小野　直也 有 ☑　無 ☐　市内の回復期病院で理学療法士として5年勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）	90	時間数	180時間
授業目的	2年次までに各専門科目で学んできた知識や技術を集成・応用し理学療法アプローチの基礎となる評価の進め方を学習する。各種疾患の症例に即して、各種の情報収集及び検査・測定手順を指導者の下、見学・模倣・実施することが重要な課題となる。さらにそれらのデータを統合・解釈して患者さんのニーズやゴールを考察していく。				
到達目標	a）他職種からの情報を得ることができる。 b）各疾患に合わせて検査・測定を実施できるようになる。 c）検査結果を記録し、自ら調べ得る範囲内で異常の原因や各検査結果の関連性を考えることで、評価結果の妥当性を検討することができる。				
テキスト・ 参考図書等	臨床実習の手引き				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	臨床実習指導者の評価と、実習報告会における発表内容を併せ、総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	80%	

履修上の 留意事項	十分な準備を行ってから実習に臨んでください。 ご協力いただく対象者の気持ちを考え、感謝の念を持って実習を行ってください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1～5	1. 実習前評価	実習前筆記・実技試験にて、直接対象者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。
	6～88	2. 臨床実習	各実習施設に赴き臨床教育者の指示のもと、病歴などに関する医学的情報を収集したり、関節可動域や徒手筋力テストなどの検査・測定を体験（見学・模倣・実践）し、評価結果の妥当性や根拠のある評価に務める大切さを学習する。
	89～90	3. 実習後評価	実習における教育成果の判定には実習報告会の内容や提出物等について確認し、臨床教育者評価を参考に総合的に判定する。

授業科目 （科目ID）	臨床実習Ⅰ 23p222	担当教員	浜本　浩一
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内外の総合病院等で理学療法士として16年間勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員	吉田　香織
授業形態	実習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務
		担当教員	元木　純
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員	竹中　謙将
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務
		担当教員	江戸　香苗
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務
		担当教員	武田　祐貴
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
		担当教員	吉田　智子
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　市内整形外科病院にて理学療法士として10年以上勤務
		担当教員	横野　裕行
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内外の病院にて理学療法士として8年間勤務
		担当教員	山内　真帆
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐　道内の病院で理学療法士として8年勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐